

令和3年度 第2回保育士就職支援セミナーレポート

絵本でひろがるこどもの笑顔 こどもの発達にそった年齢別の読み聞かせ

【日時】 令和3年10月29日（金） 14時～16時15分

【会場】 吹田市立子育て青少年拠点 夢つながり未来館（ゆいぴあ）
6階多目的ホール

講師 徳永 満理さん

元おさなご保育園園長、元兵庫大学短期大学部講師、
元兵庫大学非常勤講師、元佛教大学非常勤講師、
兵庫大学・兵庫短期大学部主催 幼稚園免許更新講習「領域言葉」講師。『あかし絵本保育士養成講座』講師、吹田市のびのび子育てプラザ主催の子育て講座講師。
現在、おさなご保育園理事長。絵本作家。



☆新型コロナウイルス感染症の予防対策をしっかりと講じて実施しました。

セミナー受講者アンケートでも要望の多い絵本の読み聞かせについて、
徳永満理先生に講義をしていただき17名の方が参加されました。



スマホに子育てさせないで

冒頭に、日本小児科医会による『子どもとメディア』の問題に対する提言>
・・・乳幼児期の子供がメディアと長時間接触する事で、外遊びの機会を奪い
人との関わりの体験の不足、特定の親しい人との関わりを奪う危惧がある・・・
という内容に触れられました。

今、子育ての中でも『騒いだ時に（動画を見せると）おとなしくなる』『泣き止む』
『子供用トイレにタブレット端末をつけてトイレトレーニング』など、乳幼児期から
スマホやタブレットを日常的に見ているというスマホ育児の広がりがあります。

子育てにとって大切な『絵本』

そこで絵本の魅力について話されました。

絵本は、美術と文学の総合芸術です。

人間の『声』で読むものであり、大人にとっても楽しい世界です。

そしてただ読んであげるだけではなく、情熱や思いを大切に読んであげましょう。

実際にここにはないものをイメージする楽しさがあり、物語の世界を楽しむことでイメージが育っていきます。心が動くこと、感動することが行動への始動力になります。

子供のつぶやきに耳を傾けてあげることが大切であり、読み聞かせをすることで、言葉でものを考えること（思考機能）が育ちます。

絵本を通して、聞く、見る、話す、感じる心を育てるために

保育の中で絵本を位置づけ(保育所保育指針、領域『言葉』)

保育と保育の『つなぎ』に絵本を使わないで、絵本と子供を大切に encountering させてあげること、絵本をひとつのツールとして大切にしていけることを述べられました。



年齢別の子供の発達にあった絵本の紹介では、保育園で読み聞かせをしたときのエピソードや、絵本を題材に子供たちが楽しみながらごっこ遊びや劇に発展する様子も聞かせていただきました。

最後に、事前に受講者の方にお渡ししていた講師への質問票（絵本の読み方、読み聞かせのときの悩み等）に沿って、一つ一つ丁寧に答えてくださいました。紹介していただいた絵本は講義後、受講者の皆様に手に取って見ていただきました。



今回、絵本の読み聞かせをすることの大切さを具体的にお話していただき、発達に応じて絵本を選び、読み聞かせることの意義、子供と一緒に楽しみながら遊びを発展させていくなどの保育の楽しさを教えていただきました。

受講者の皆様にはぜひ、今後の実践に役立てていただけたらと思います。



セミナー参加者の声

先生のお話にいろいろな思いがあふれ出て、時々涙が流れました。心を込めて、そして情熱をもって、絵本を通して『コミュニケーション＝笑いを引き出すこと』が印象的でした。メッセージを届けると思うと、背筋が伸びる気分になりました。



子供の成長に関われることは素晴らしい機会。保育する側にもかけがえのない時間。それと絵本を用いてさらにゆったりとした時間と経験となることがよく感じられました。時間がかかることに追われがちですが、もっとゆったりとした気持ちで子供に向かうようにしたいと思います。



たくさんの絵本を紹介していただきながら、現場の子供の様子を聞き、また現場で働きたい気持ちが高まりました。働いているときには、絵本をつなぎとして使うことが多かったので、先生の講義を聞き、考えを改めていかなければと思いました。

絵本の読み方、読む時の気持ちの持ち方によって、絵本を読んでいるとき、読み終わった後も振り返る等でイメージのふくらみ方などが全然違う（変わってくる）のだと改めて思いました。これからもゆったり楽しくいろいろな絵本を読みたいです。



今後も保育にすぐに役立つ、保育士就職支援セミナーを開催します。令和4年1月29日（土）には『保育園の生活、感染症とけが』のテーマで、保育園の一日の生活と、けがや病気の対応についての講義を行う予定です。

詳しくは当ホームページや市報すいた等でお知らせします。

